

1. 報告要旨

本会については、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、止む無く中止という判断に至った。

しかし企画の過程において、新たな課題や今後の可能性が明確化したため、以下に記載する。

第一回においては、グローバル化・規格化が与えるタネへの影響に焦点を当て、現代社会におけるタネの価値を編集・再発信できる人材の育成を目指した。個々の「点」としての活動が共有されつながら「面」へと広がっていくプロセスを共有できた反面、その「担い手」となる人材の質の向上やステークホルダーとの関係性の構築等に依然として課題があることを痛感した。この課題の解決のためには、「集中的な担い手の育成」が各地域で旗振り役となる人材の台頭を促しタネの再価値化を推し進めると考え、本企画に至った。

実施にあたっては、具体的な目標として「台湾の先進事例から得た知見を自らの地域に沿う形へ変換し応用する」「コアメンバーを中心としたプラットフォームが立ち上がり情報共有などが行われる」の2つを掲げた。新型コロナウイルス感染症の為惜しくも実施には至らなかったものの、企画を進める中でも今後の発展につながる大きな可能性を感じた。

1つ目の目標については、「国政レベルの団体が全面的に理解・協力してくれ受け入れ体制を整えていたこと」「不催行でもなお、各地域の有識者間で情報共有の可能性を探る動きがあったこと」等は、ホスト側及び参加者側の熱量が共に相当なものであることを示しており、実際の場が開かれていれば濃密で有益な5日間につながっていたことは間違いないと考えられた。また2つ目の目標においても、企画段階で「第一回後から任意で組織されたSNSグループが断続的に稼働していること」「第一回後に起きた地域間交流から発展し、他地域との協働イベントが検討されている」等の動きがあった。第二回の中ではプラットフォームの構築や協働の可能性について議論する場を設けていたので、こうした動きを土台にした有機的なつながりが生まれていたことも容易に想像できる。こうした熱を温めつつ、企画過程で発生した課題を解決しながら、次回開催を模索していきたい。

なお成果物については、本会が中止となったため、特設作成はしておらず、「なし」とする。

2. 成果物

なし